



【崔子玉座右銘】

- ① 無道人之短、(訓讀) 人(ひと)の短(たん)を道(い)うこと無(な)かれ
他人の短所を責めてはいけない。(歌)
- ② 無説己之長。己(おのれ)の長(ちやう)を説(と)くこと無(な)かれ
自分の長所を誇ってはいけない。
- ③ 施人慎勿念、人(ひと)に施(ほどこ)しては慎(つつし)みて念(おも)うこと勿(な)かれ
他人のために良いことをしても、そのことを恩に着せてはいけない。
- ④ 受施慎勿忘。施(ほどこ)しを受(う)けては慎(つつし)みて忘(わす)るること勿(な)かれ
自分が他人から良いことをしてもらったときには、いつまでも忘れてはいけない。
- ⑤ 世譽不足慕、世(よ)の譽(ほま)れは慕(し)とうに足(た)らず
世間の名声などは、求める価値がない。
- ⑥ 唯仁為紀綱、唯(た)だ仁(じん)のみ紀綱(きこう)と為(な)せ
思いやりの心をもっていることが、人間として大事なのだ。
- ⑦ 隱心而後動、心(こころ)に隠(か)りて後(のち)動(うご)く
心の中でよく考えてから行動を起こせ。
- ⑧ 謗讒庸何傷、謗讒(ぼうざん)は庸(どう)なん(なん)ず傷(いた)まん
他人から悪口を言われても、意に介する必要はない。
- ⑨ 無使名過實、名(な)をして實(じつ)に過(ひつ)ぎしむること無(な)かれ
実力以上の名声を求めてはいけない。
- ⑩ 守愚聖所感、愚(ぐ)を守(まも)るは聖(せい)の感(かみ)する所(ところ)なり
自分は人より優れているなんて思わずに、愚か者の本分に甘んじることを、聖人も良しとして
- ⑪ 在涅責不濯、涅(でつ)に在(あ)るも濯(くわ)るまらざるを責(たつ)ぶ
黒い土のような汚い世の中で生活していながらも、自分自身が汚れて黒くならないことが大切だ
- ⑫ 曖曖内含光、曖曖(あいあい)として内(うち)に光(ひかり)を含(ふく)む
暗愚であつても、自分の中にキラリと光るものを持つ。
- ⑬ 柔弱生之徒、柔弱(じゅうじやく)は生(せい)の徒(と)なり
やわらかく、しなやかに生きることが、この世を生きるすべだ。
- ⑭ 老氏誠剛彊、老氏(らうし)は剛強(ごうきやう)を誠(いま)しむ
老子も強く勇敢に生きてはいけないと戒めている。
- ⑮ 行行鄙夫志、行行(こうこう)たり鄙夫(ひふ)の志(こころざし)
強情で強硬な生き方は、卑しい人のやること。
- ⑯ 悠悠故難量、悠悠(ゆうゆう)として故(もと)より量(はか)り難(がた)し
ゆったりと生きるならば、限りなく可能性は広がってくる。
- ⑰ 慎言節飲食、言(げん)を慎(つつし)しみ飲食(いんじよく)を節(せつ)す
言葉をつつしみ、暴飲暴食を避ける。
- ⑱ 知足勝不祥、足(た)ることを知(し)りて不祥(ふしやう)に勝(か)つ
欲望肥大を戒め、災難もしなやかに乗り越える。
- ⑲ 行之苟有恒、之(これ)を行(おこな)いて苟(まこと)に恒(つね)有(あ)らば
以上を一つ一つ常に実行してゆくならば、
- ⑳ 久久自芬芳、久久(きゅうきゅう)にして自(おの)ずから芬芳(ふんぼう)あらん
長い年月のうちに必ず人徳がそなわってくる。

唯仁為
紀綱



言不
足慕



茶 茶

花 也



後 動
隱 心 爾

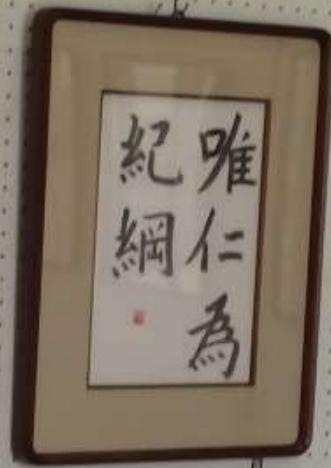


人の短き道いと喜りれ己の長を説くと無かれ人に施し
ては慎みて念うとかれ施しを受けては慎みく忘るゝとかれ
世の譽れは慕うに足らず 唯一人のみ紀綱と爲せ心に
隠して後動く 詩議庸何ぞ傷まん名をく實に過さじ
むらゝと無かれ 思を守るは聖の戒する所なり 淫にならば 借
まをうと貴ぶ 腹々として内に光を合む 柔弱は生の徳なり
先氏は剛彊を戒しむ 行なり鄙夫の志 愆をくを故より
量り稽し 言を慎しみ飲食を節す 足るを切て必祥
に備つ 之を切て苟と恒有らば久々にして自ら未だ芳ありん

山莊子玉座古録

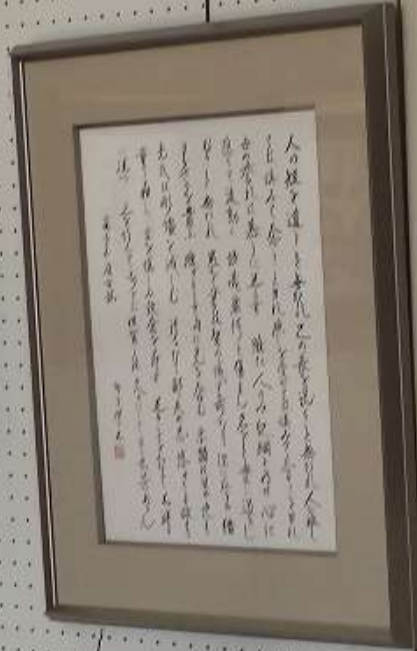
旬子祥出





書道教室
作品展





書道教室
作品展

